



2025年3月期 第2四半期決算



極東開発工業株式会社
東証プライム:7226

- | | |
|---------------------|---------|
| 1. 2025年3月期第2四半期 実績 | P2 ~ 4 |
| 2. セグメント別実績 | P5 ~ 13 |
| 3. 2025年3月期通期 業績予想 | P14~25 |
| 4. 企業価値向上へ向けた取り組み | P26~31 |

1. 2025年3月期第2四半期 実績

2025年3月期第2四半期 連結決算実績サマリー



決算期 百万円	2024/3期 2Q	2025/3期 2Q	増減	増減率
売上高	59,570	64,007	+ 4,437	+7.4%
営業利益	1,311	2,740	+ 1,429	+109.0%
経常利益	1,858	2,672	+ 814	+43.8%
親会社株主に帰属する 中間純利益	1,063	3,068	+ 2,005	+188.6%
特装車事業 受注高	43,041	49,515	+ 6,474	+15.0%
特装車事業 受注残高	81,470	82,784	+ 1,314	+1.6%

2025年3月期
第2四半期
連結決算の
ポイント

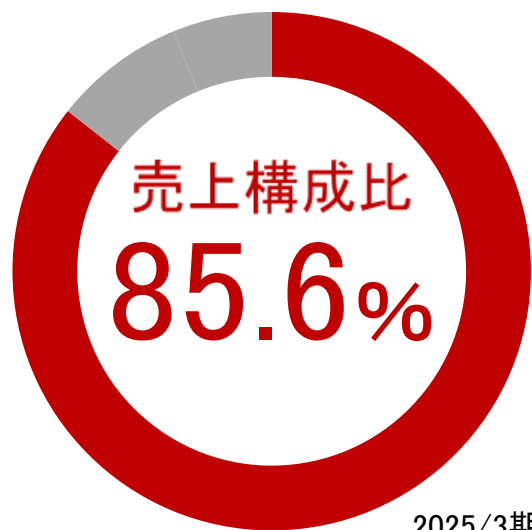
- ✓ 売上高は、2Qとして過去最高
- ✓ 前期比では、環境事業の売上高を除く全てのセグメントで増収増益
- ✓ 国内トラックシャシ供給の改善と製品価格改定の効果が表れ、利益率が改善

連結決算実績 四半期別推移

(累計期間)

決算期 百万円	2024/3期				2025/3期		増減(対前年同期)	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	金額	%
売上高	26,091	59,570	90,311	128,026	28,626	64,007	+ 4,437	+7.4%
特装車	22,313	51,153	76,964	107,115	24,741	55,104	+ 3,950	+7.7%
うち海外	2,321	5,110	7,764	10,182	2,062	4,486	△ 624	△11.2%
環境	2,301	5,332	8,311	13,821	2,163	5,271	△ 61	△1.1%
パーキング	1,619	3,371	5,472	7,699	1,886	3,965	+ 593	+17.6%
営業利益	△ 87	1,311	2,161	4,825	931	2,740	+ 1,429	+109.0%
特装車	△ 240	743	1,262	2,451	733	2,064	+ 1,321	+177.7%
うち海外	156	402	554	773	101	299	△ 103	△35.3%
環境	200	691	1,074	2,644	197	714	+ 23	+3.4%
パーキング	145	342	551	780	191	424	+ 82	+24.0%

2. セグメント別実績



売上高

↗ 前年に比べ生産台数は減少するも、製品価格改定により増加

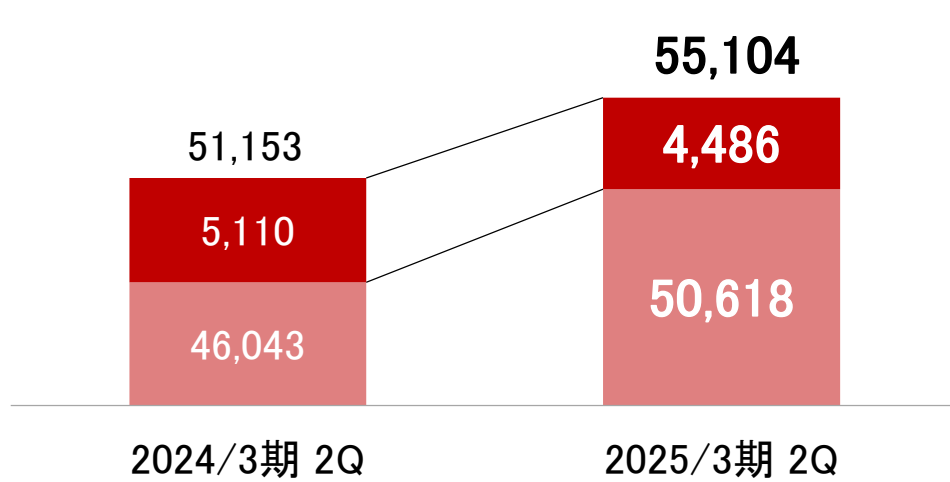
営業利益

↗ 製品価格改定による利益率の向上

↗ 国内トラックシャシ供給の改善による生産性の向上

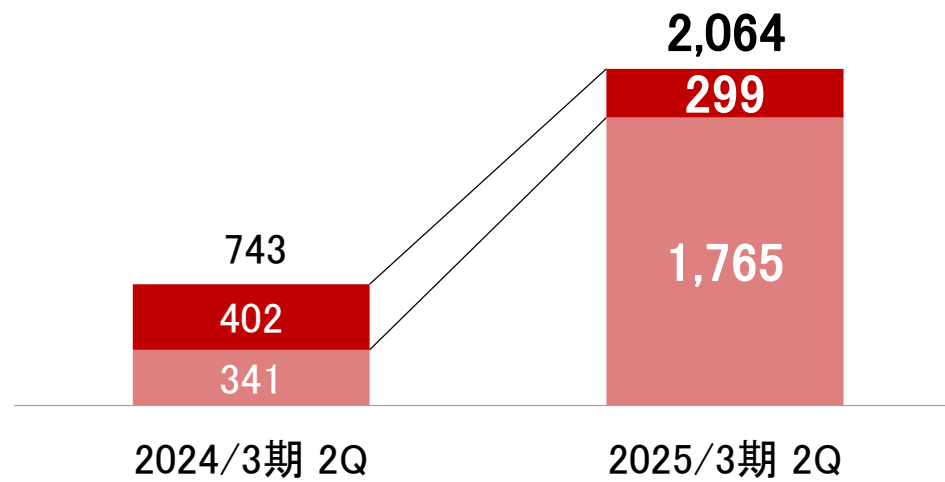
売上高 前期比 +7.7%

■ 国内 ■ 海外



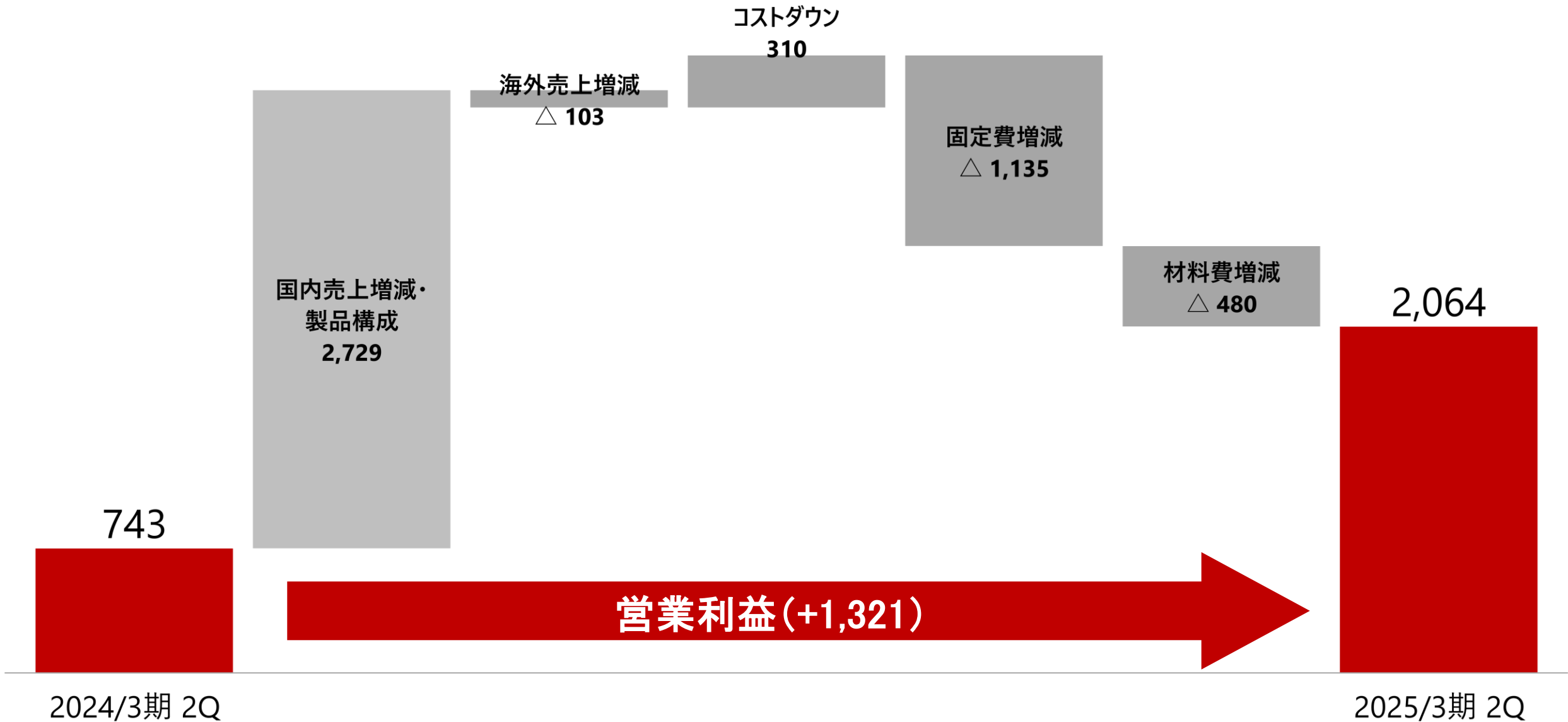
営業利益 前期比 +177.7%

■ 国内 ■ 海外



連結営業利益増減要因（特装車事業）

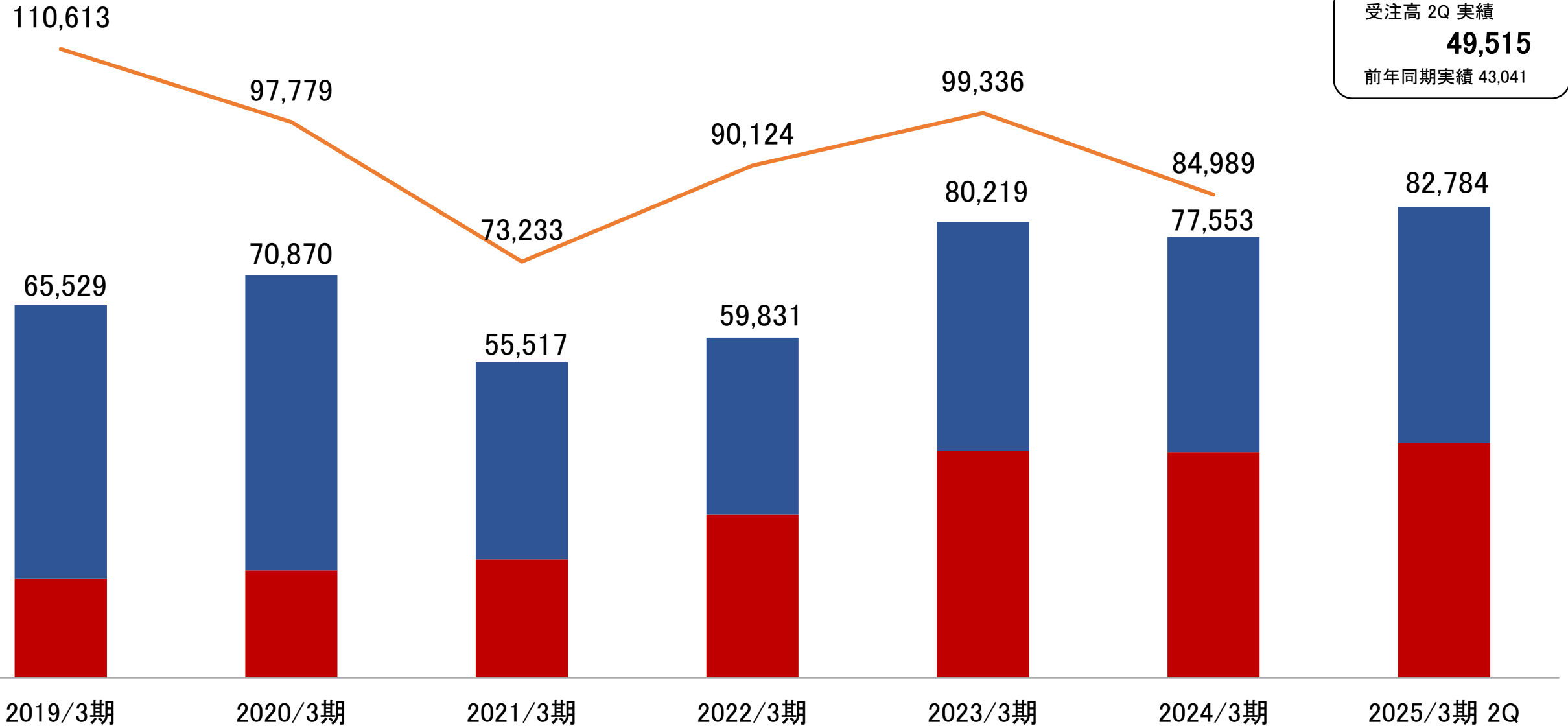
（単位：百万円）



特装車事業 受注高と受注残高

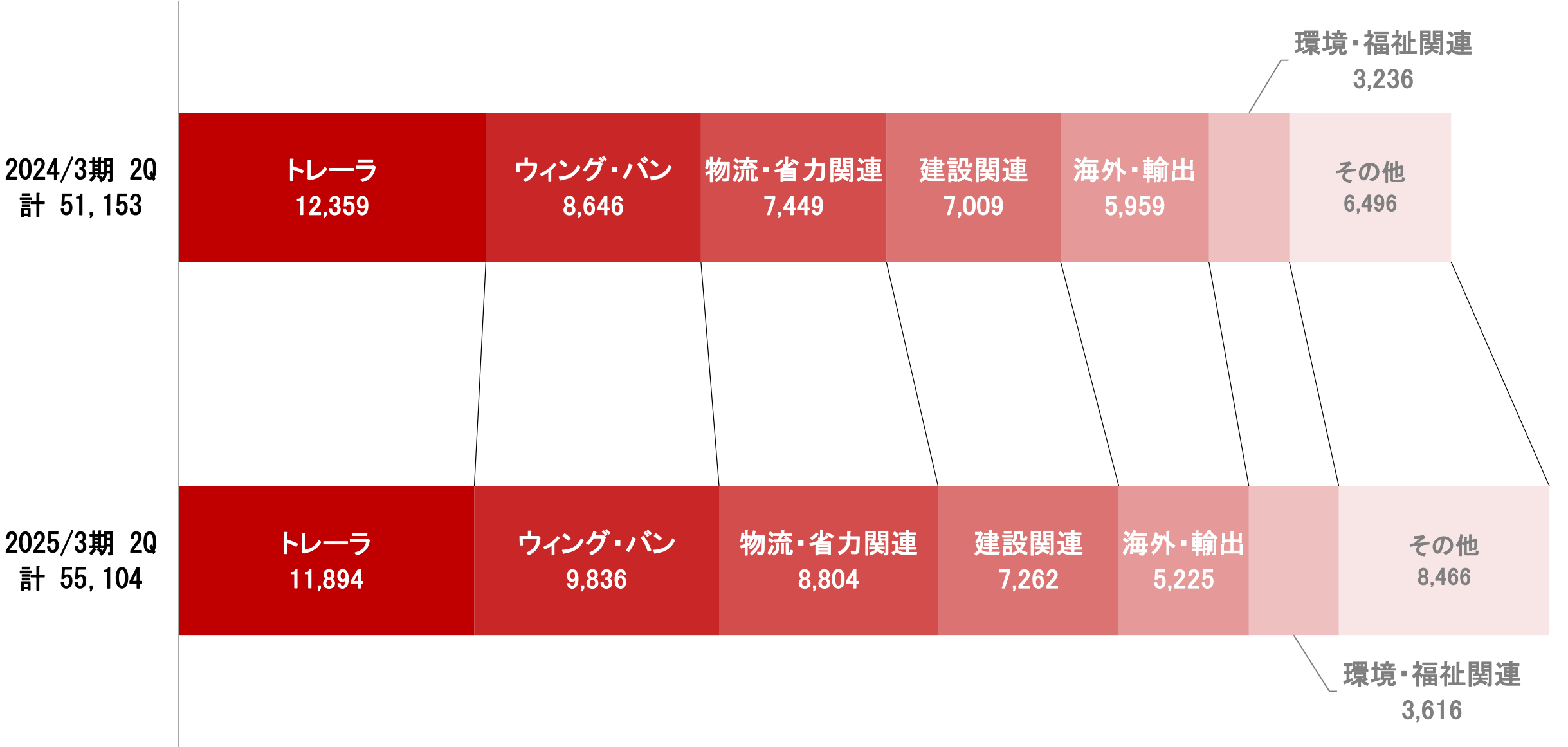
■ 極東 受注残高 ■ トクス 受注残高 — 受注高 合計

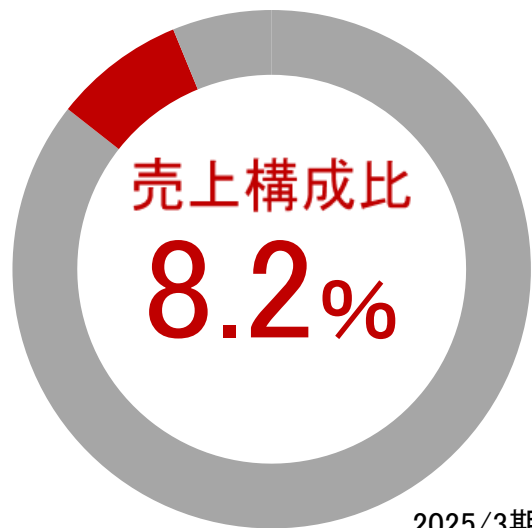
(単位:百万円)



特装車事業 売上構成

(単位:百万円)





売上高

- ➡ プラント建設 受注済物件の建設工事を継続
- ➡ メンテナンス・運転受託のストックビジネスに注力

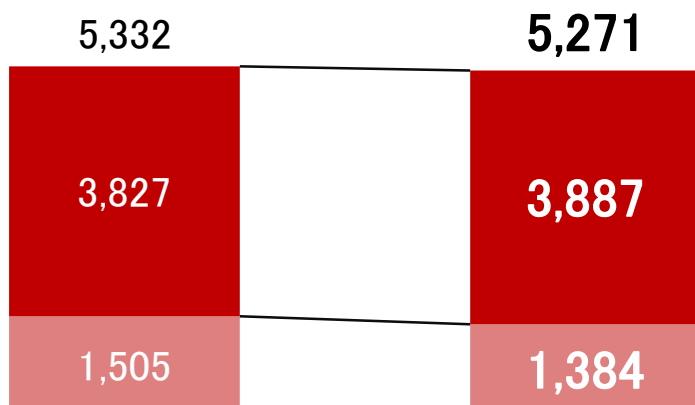
営業利益

- ➡ 前年同期と同水準を維持

売上高

前期比 $\Delta 1.1\%$

■ プラント ■ メンテナンス・運転受託

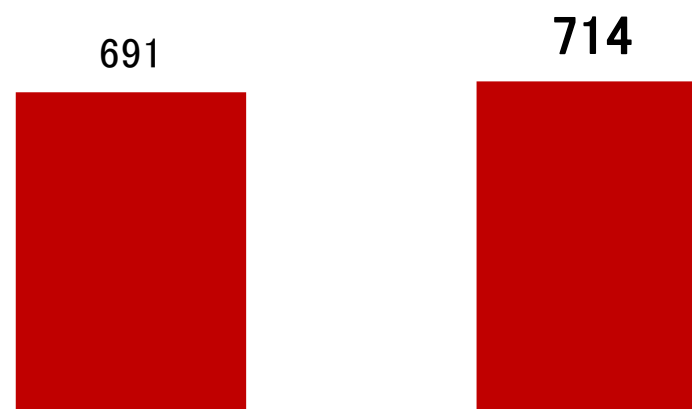


2024/3期 2Q

2025/3期 2Q

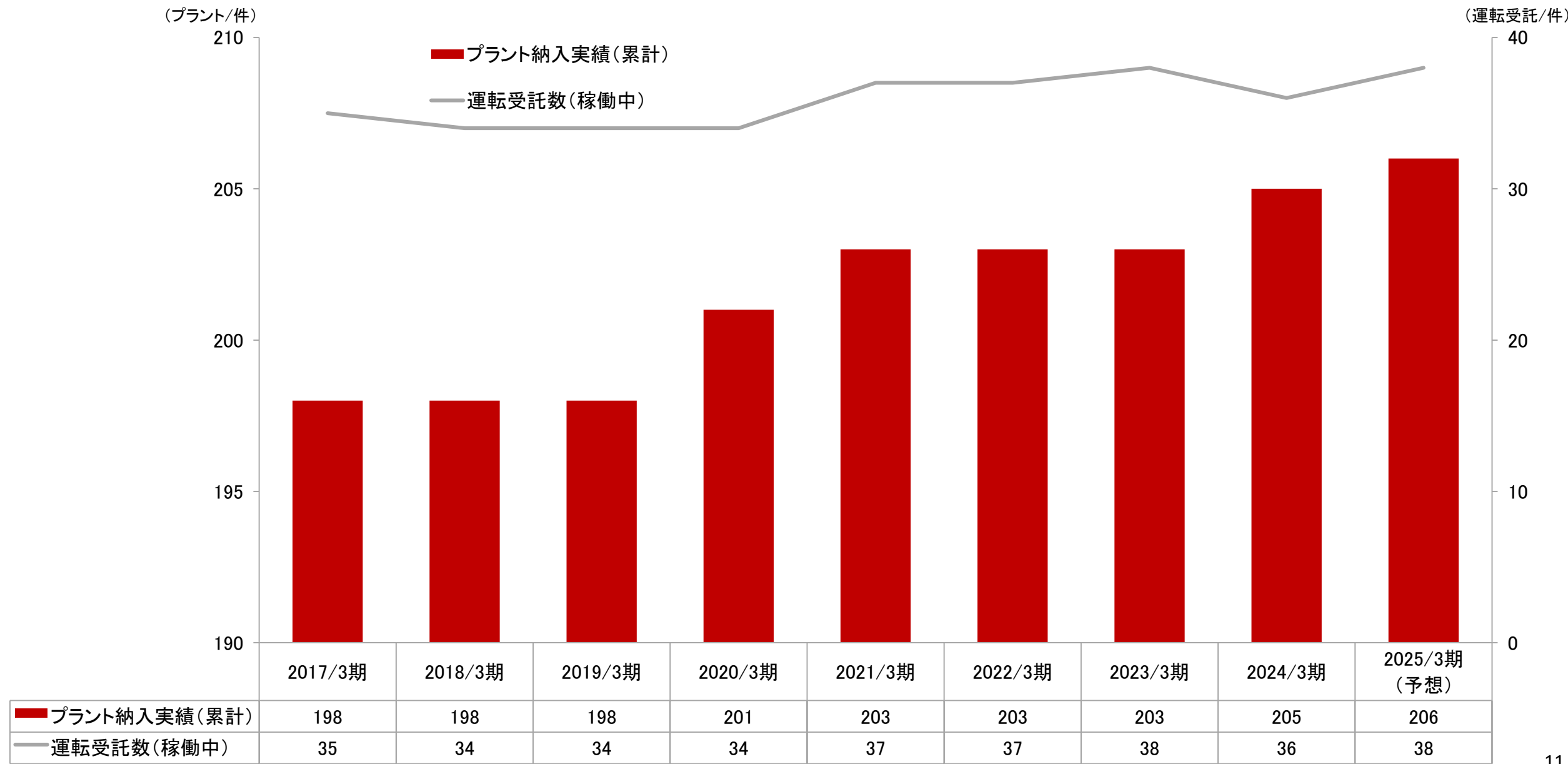
営業利益

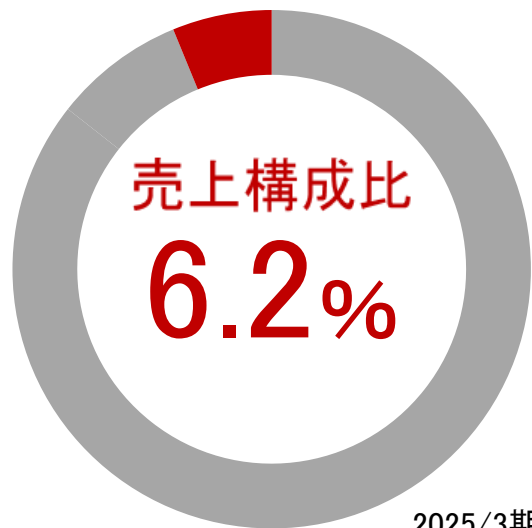
前期比 $+3.4\%$



2024/3期 2Q

2025/3期 2Q





売上高

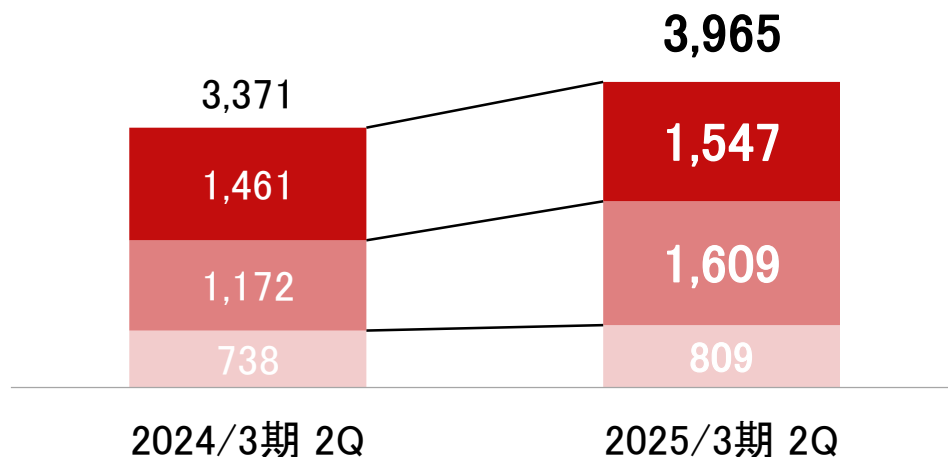
- ↑ 立体駐車装置は、新規受注及びメンテナンスの両方が大きく増加
- ↑ コインパーキングは、昨年から引き続いて稼働率が回復しており微増

営業利益

- ↑ 立体駐車装置のストックビジネス(リニューアル・メンテナンス)が
大きく寄与し利益全体を底上げ

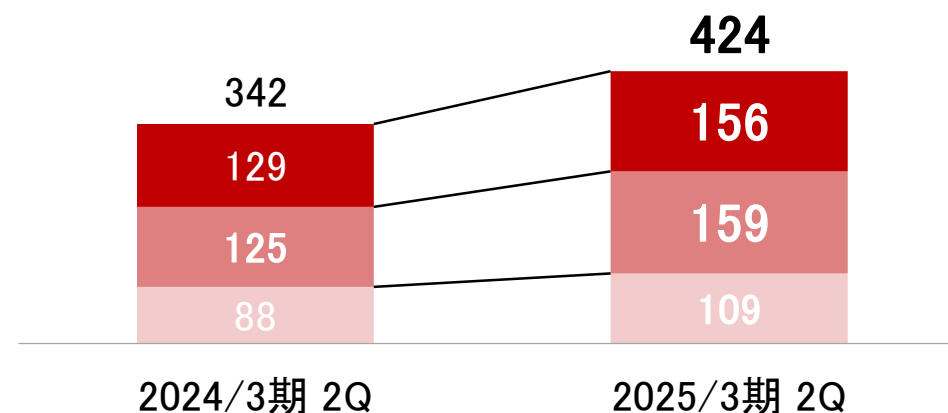
売上高 前期比 +17.6%

■ その他 ■ 立体駐車装置 ■ コインパーキング



営業利益 前期比 +24.0%

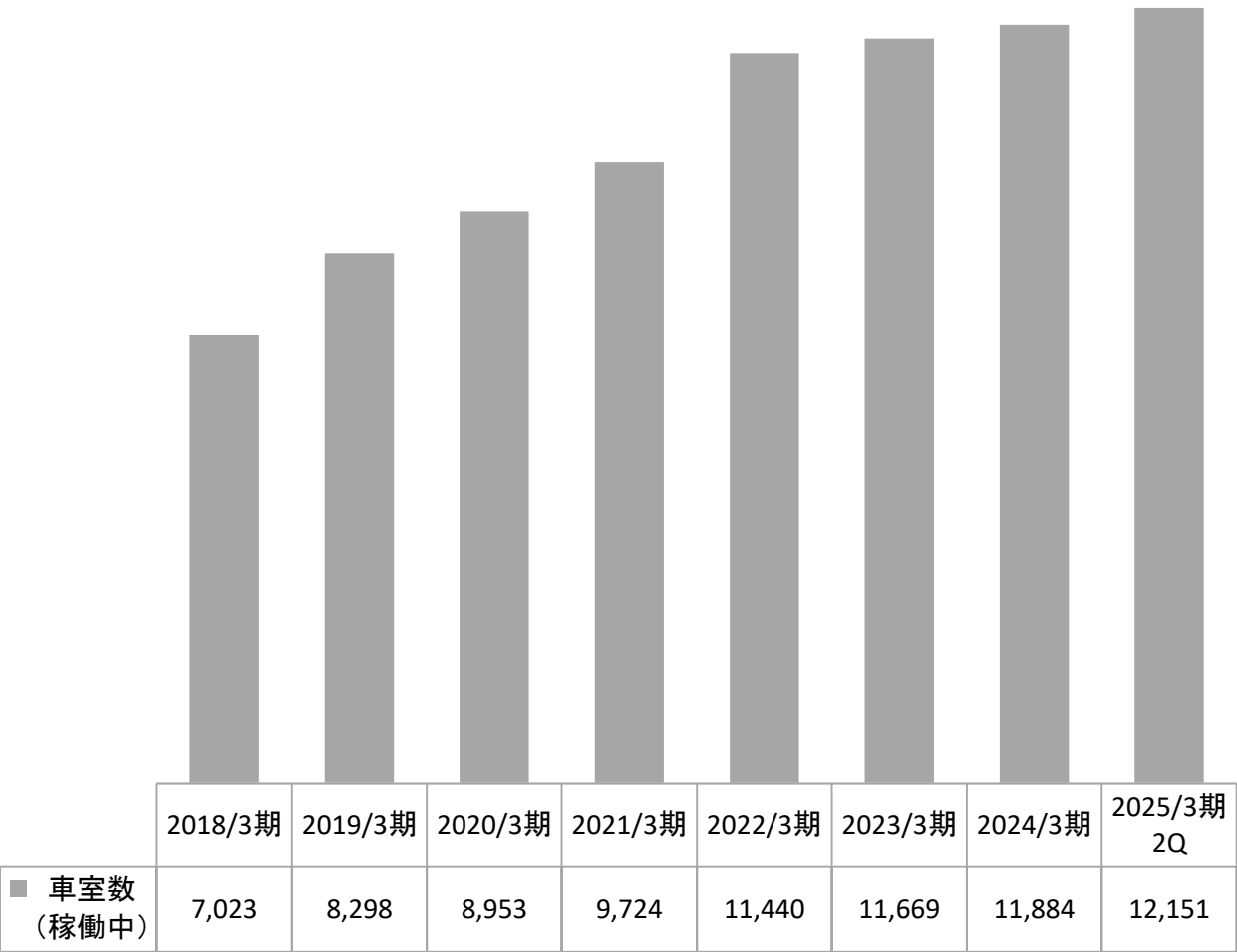
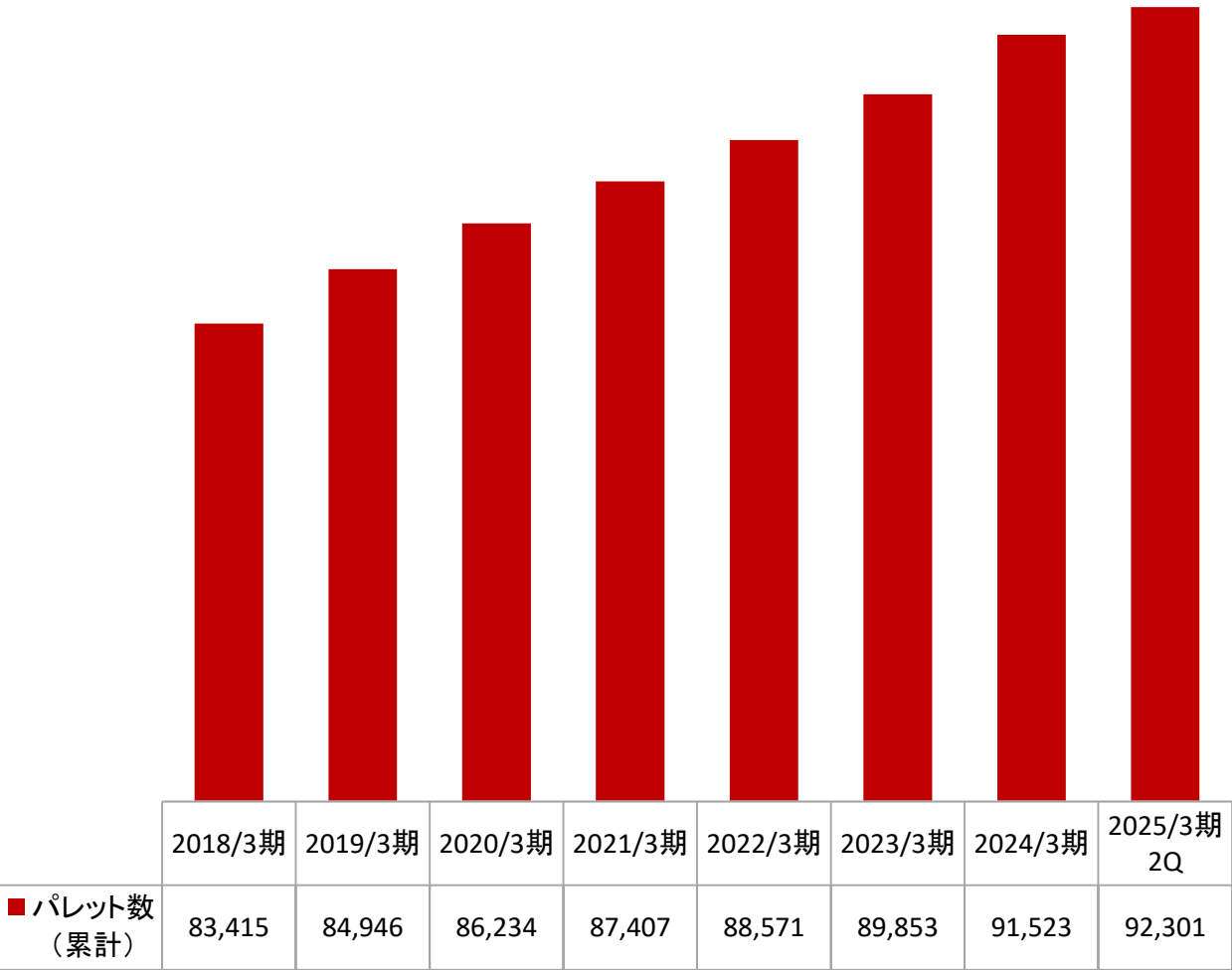
■ その他 ■ 立体駐車装置 ■ コインパーキング



(単位:台)

立体駐車装置パレット数(累計)

コインパーキング車室数(稼働中)



3. 2025年3月期通期 業績予想

決算期 百万円	2024/3期 (実績)	2025/3期 (予想)	増減	増減率
売上高	128,026	134,000	+ 5,974	+4.7%
営業利益	4,825	6,300	+ 1,475	+30.6%
経常利益	5,617	6,500	+ 883	+15.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,501	5,700	+ 2,199	+62.8%

2025年3月期
連結業績予想

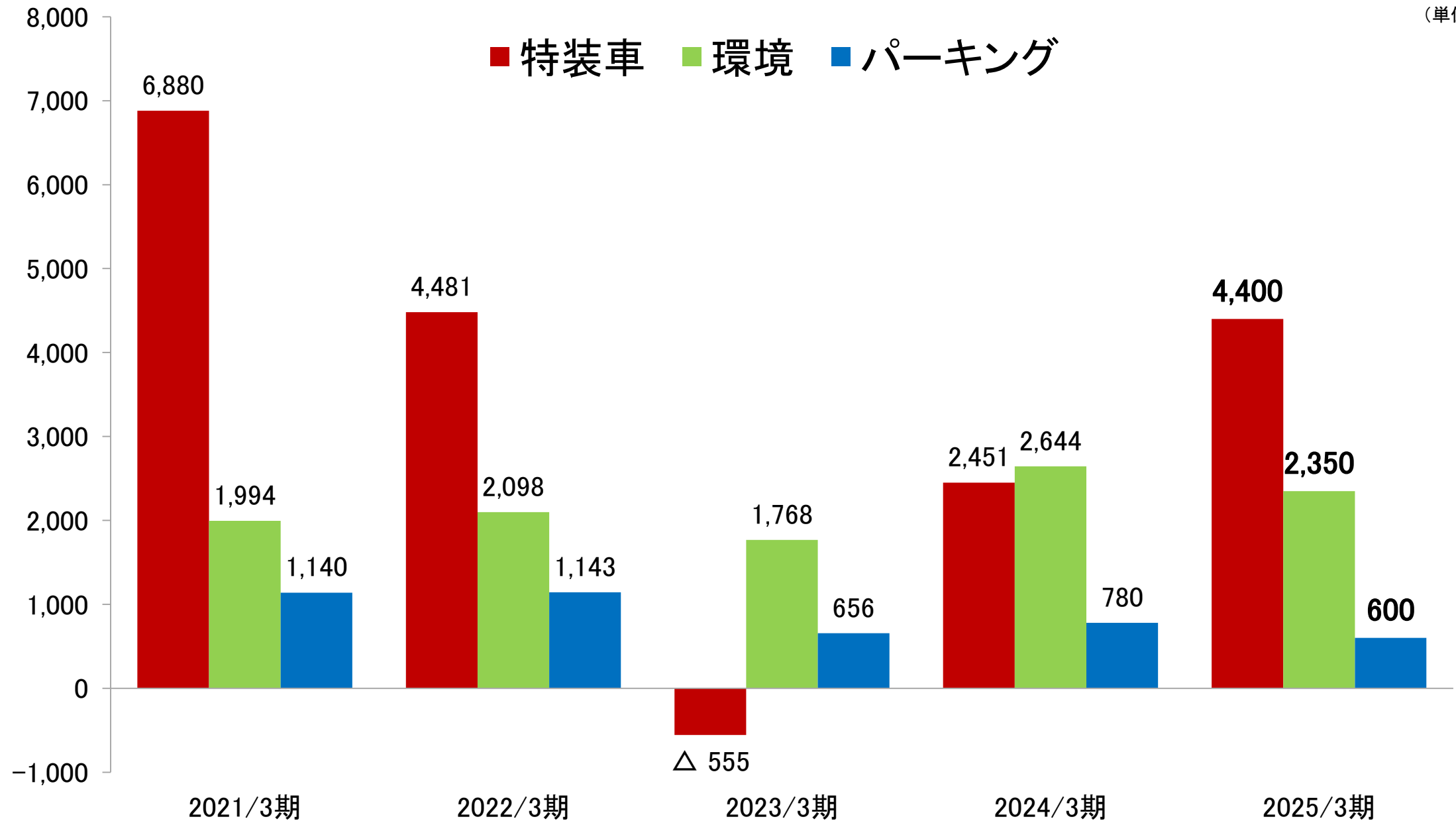
2024年8月公表の予想から修正なし
売上高 1,340億円 営業利益 63億円 経常利益 65億円
親会社株主に帰属する当期純利益 57億円

2025年3月期
配当予想

2024年8月公表の予想から修正なし
1株当たり配当金
中間配当 75円 期末配当 75円(それぞれ前回公表58円から +17 円) 計 150円

連結営業利益推移（セグメント別）

（単位：百万円）



特装車事業 通期業績予想

特装車事業

- 受注・受注残高 とともに高水準を維持

（受注残 極東：約413億円、トレクス：約414億円 合計 約827億円）※9月末時点

- 国内トラックシャシ供給の改善
- 製品価格改定後の製品の売上増加

売上高 前期比 +6.0%

107,115

113,500

2024/3期

2025/3期

営業利益 前期比 +79.5%

2,451

4,400

2024/3期

2025/3期

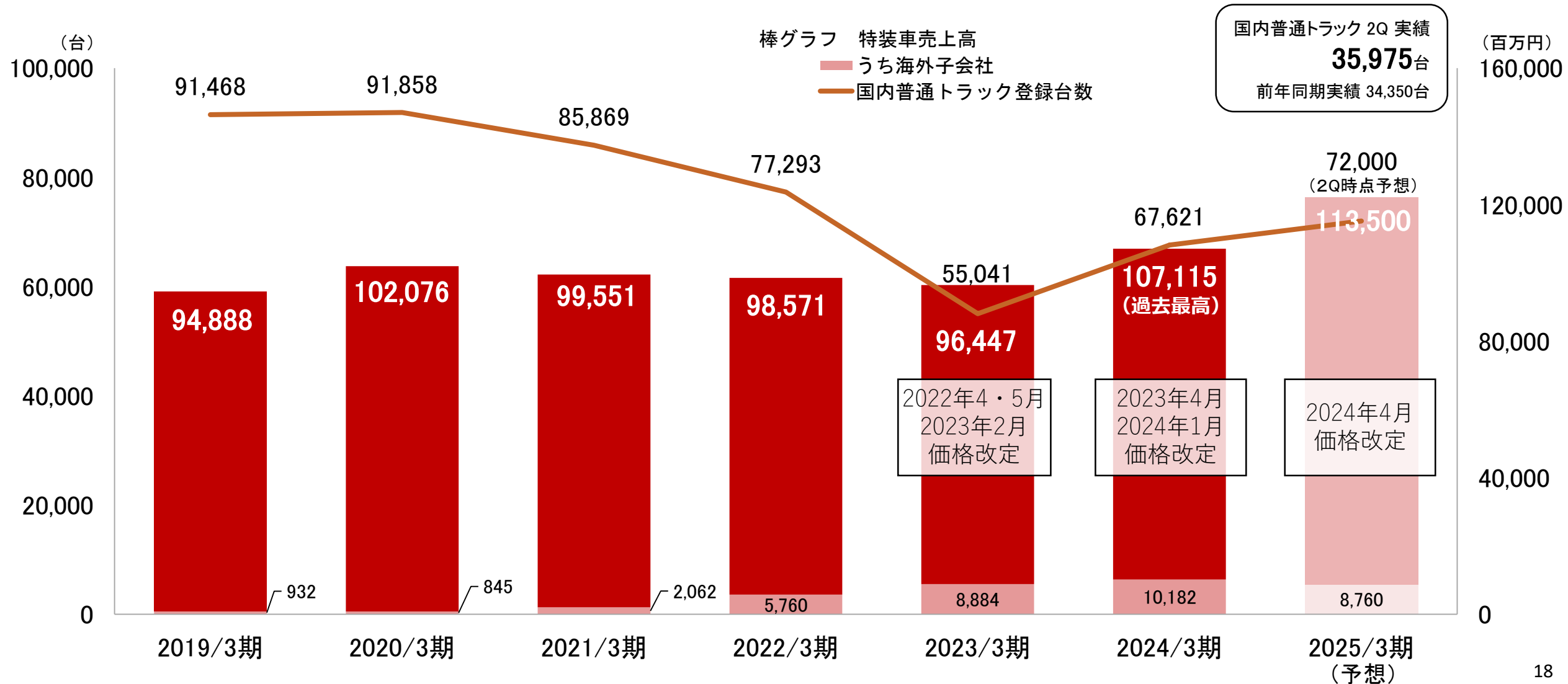
営業利益率

2.3%

3.9%

トラック市場と特装車事業の売上高推移

トラック市場はコロナ・半導体不足・シャシメーカーの認証不正等の影響で一時的に低迷するも、価格改定と海外事業強化により売上高を確保



価格改定の状況

- ✓ 受注ベース 約14～15%アップ 売上ベース 約10%アップ ※ともに値上げ前(22年3月期)との比較
- ✓ 今後も状況に応じて価格改定を継続

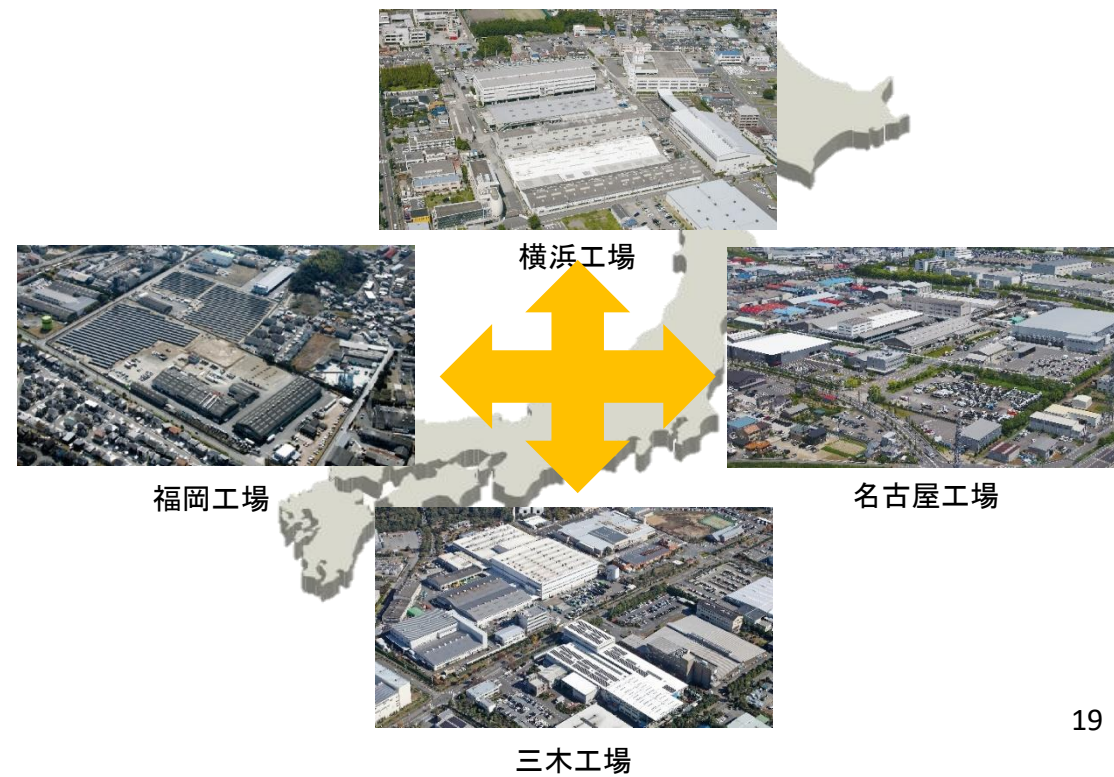
シャシ供給状況

- ✓ 国内シャシ認証の遅延やトラック部品の調達遅延等による影響
- ✓ 依然として本格稼働には至っていないが、回復基調
- ✓ シャシ搬入状況に合わせ、生産計画を行い対応

生産効率化

- ✓ 国内4工場全体での生産体制を見直し、
生産工程の最適化

➡ **生産性、営業利益率の向上を実現**



STG社 グループ化

KYOKUTO

オーストラリアの特装車メーカー STG Global Holdings Pty Ltd の株式を取得し、グループ化



取得理由

- ✓ 高い補完性を有する双方の製品ラインナップを活かした日本・オーストラリア市場を中心としたクロスセリング
- ✓ 北米・欧州市場進出に向けたプラットフォームの獲得
- ✓ オーストラリア・中国における両社の拠点活用/統合による効率化と収益性の向上
- ✓ 連結業績への早期かつ中長期的な貢献を図り、事業及び業績の拡大とグローバル展開を一層強化

➡ 今後は一体経営の加速とシナジーの最大化を目指す

【主力製品群】



吸引掘削車



散水車/給水車



塵芥車

【概要】

名 称	STG Global Holdings Pty Ltd
所 在 地	29-31 Evolution Drive, Dandenong South, VIC, 3175
代 表 者	Chief Executive Officer: Ross William Yendle
事 業 内 容	特装車の製造・販売
資 本 金	36,808千オーストラリアドル (約3,717百万円)
設 立 年 月 日	2001年(ホールディングス化 2022年9月28日)

吸引掘削車 (バキューム車)

豪州シェア No.2(※)



吸引掘削車

散水車/給水車

豪州シェア No.1(※)

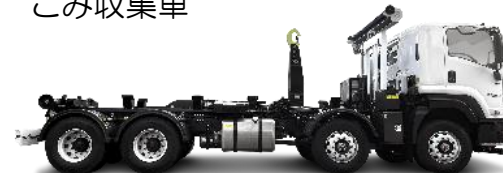


散水車/給水車

ごみ収集車/脱着車



ごみ収集車



脱着車

その他 (車両運搬車・給油車等)



車両運搬車



給油車

用途

非破壊掘削、
電気・ガス・通信配管工事

道路工事、粉塵抑制
給水

廃棄物収集

(車両運搬車)
車両・重機の運搬
(給油車) 給油

性能

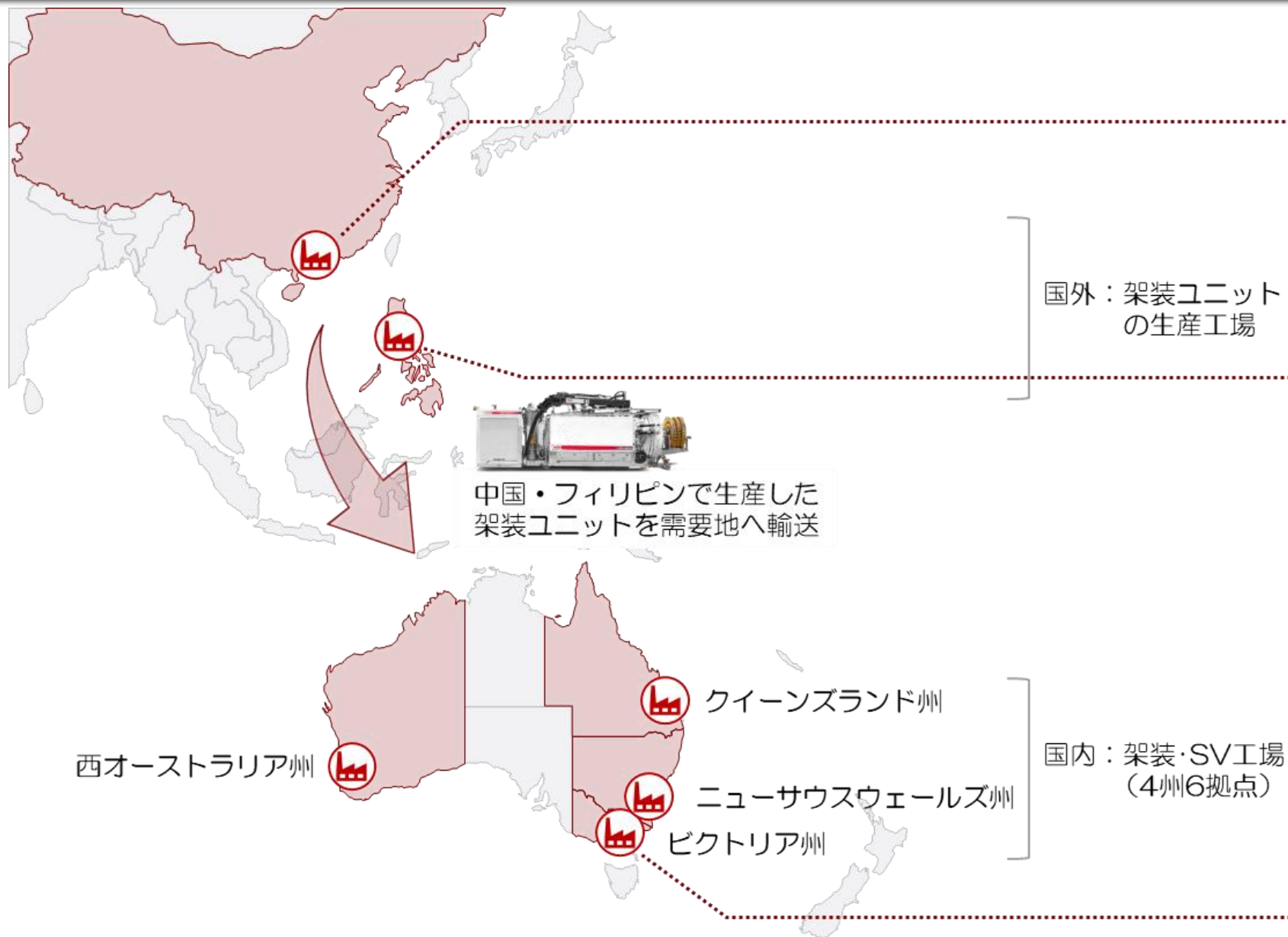
積載量 3,000~16,000L

スチールタンク / ポリタンク
積載量 8,000~19,000L

(ごみ収集車)
フロントローダー / サイド
ローダー / リアローダー
積載量 12m³~33.5m³

(車両運搬車)
荷台長 8.7m / 9.2m
(給油車)
積載量 2,100L / 4,900L

※シェアはSTG社調べ



佛山工場

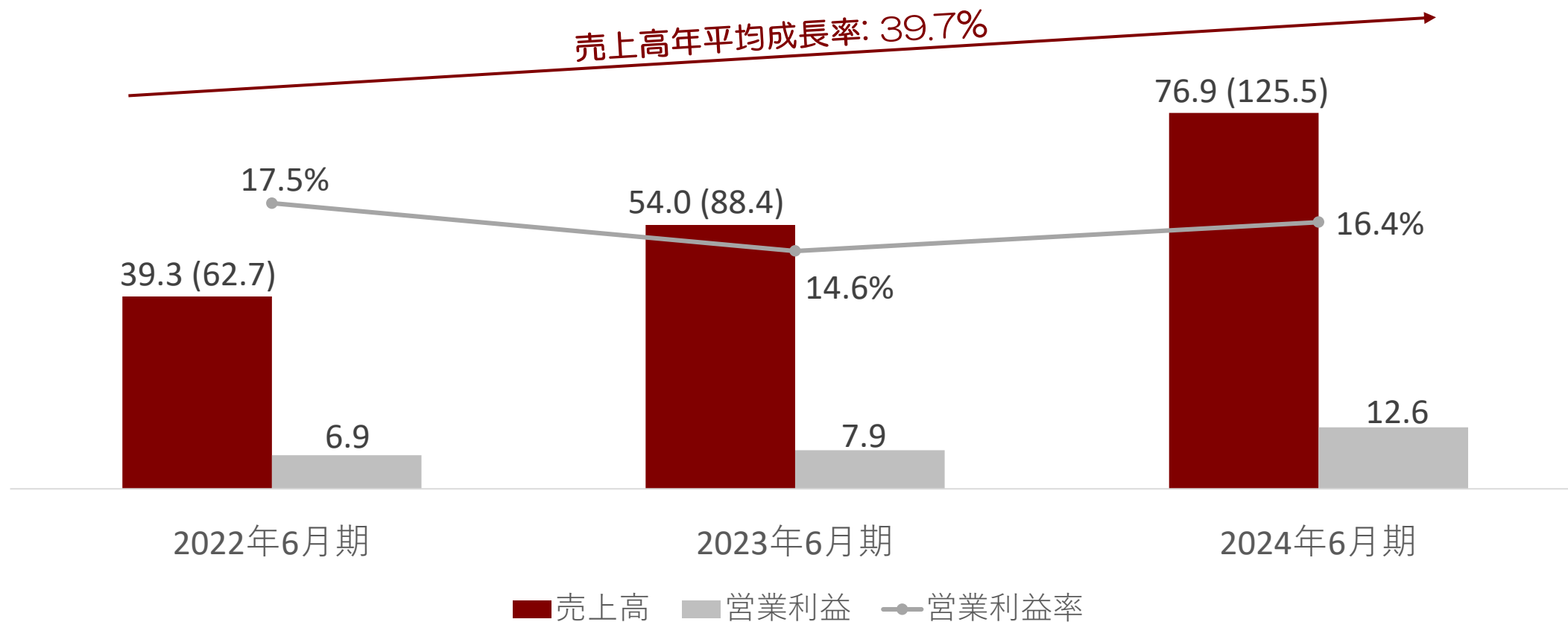


スービック工場



ダンデノン本社工場

(単位：百万豪ドル)



※売上高の括弧書き数値は、シャシを含む売上高

- ✓ 足元は売上高・営業利益とも、年平均成長率約40%と急成長
- ✓ 今後も安定的な成長を見込む

環境事業

- 運転受託及びメンテナンス等のストックビジネスは堅調
- 受注増によるプラント工事(進行基準売上)の増加
- 部品売上、運転受託、修理売上の増加
- プラント工事進行中 計 7件(北海道、東京、埼玉、石川、兵庫)

売上高

前期比 $\Delta 2.3\%$

13,821

13,500

2024/3期

2025/3期

営業利益

前期比 $\Delta 11.1\%$

プラント竣工: 2件

2,644

プラント竣工: 1件

2,350

2024/3期

2025/3期

営業利益率

19.1%

17.4%

パーキング等事業

➤ 立体駐車装置 : リニューアル・メンテナンス等のストックビジネス強化

➤ コインパーキング : 事業地・車室数増加と料金見直しにより収益確保

新サービス「Charge-mo」の導入により、EV車への対応を拡充

売上高

前期比 $\Delta 1.3\%$

7,699

7,600

2024/3期

2025/3期

営業利益

前期比 $\Delta 23.1\%$

780

600

2024/3期

2025/3期

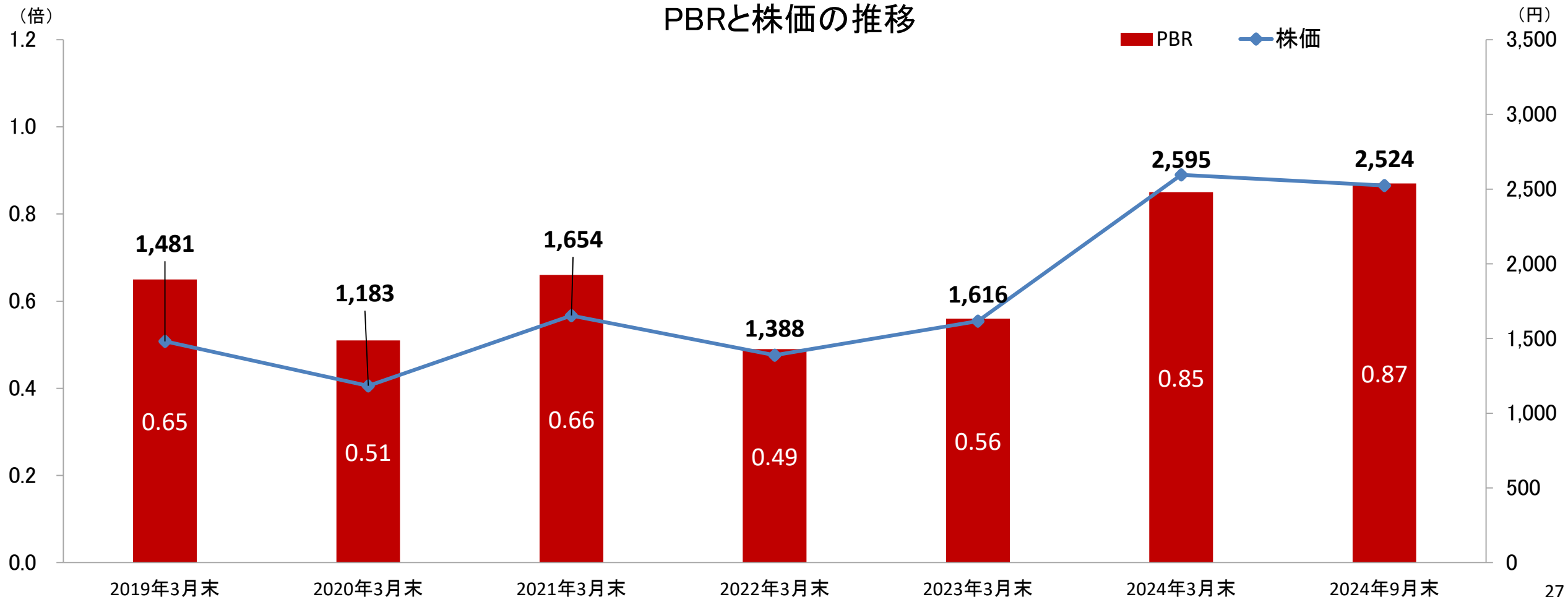
営業利益率 10.1%

7.8%

4.企業価値向上へ向けた取り組み

企業価値向上についての現状認識

企業価値の持続的な向上に継続して取り組んだ結果、PBRは 0.87倍（2024年9月末時点）
引き続き、早期のPBR 1倍達成に向け、取り組みの継続を図ることが当社の経営上の重要な課題



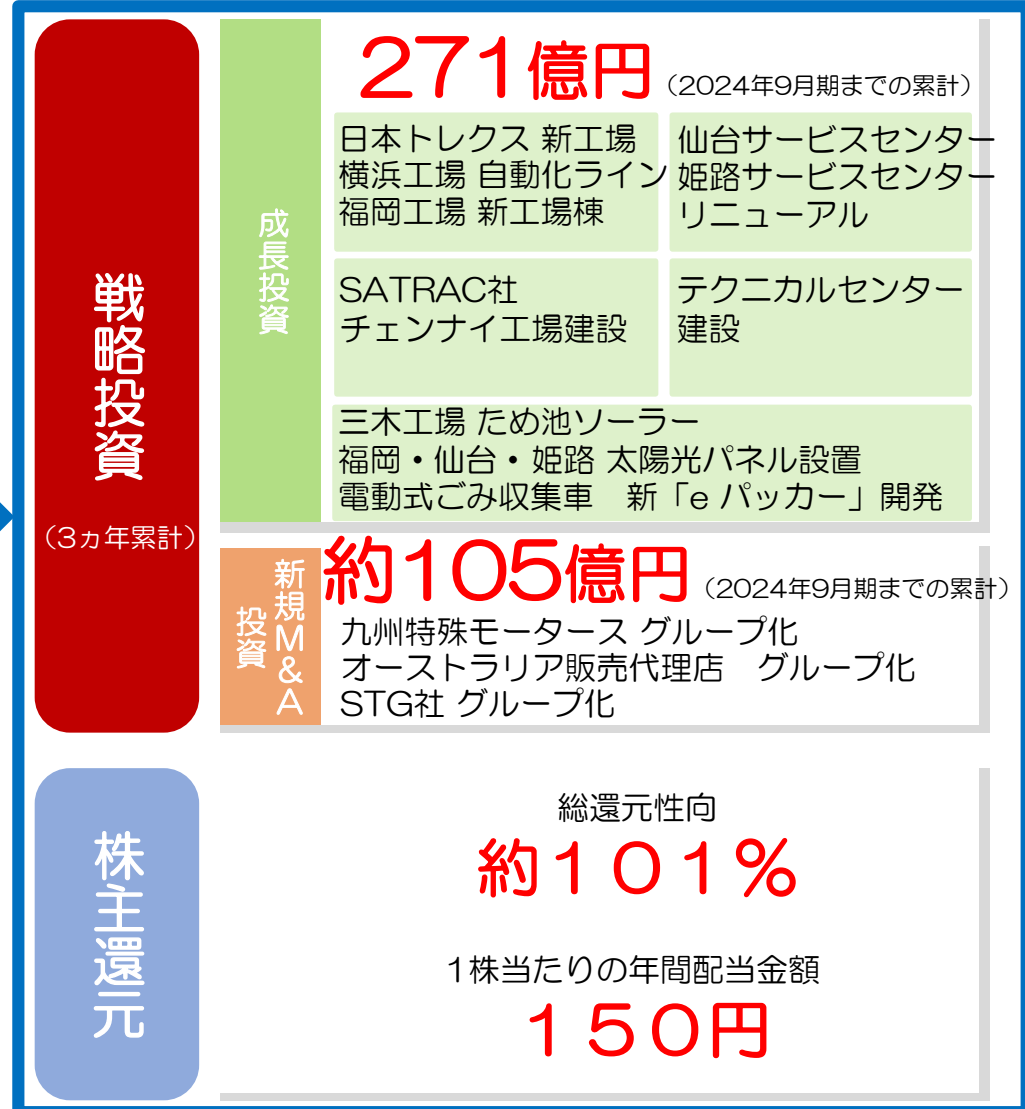
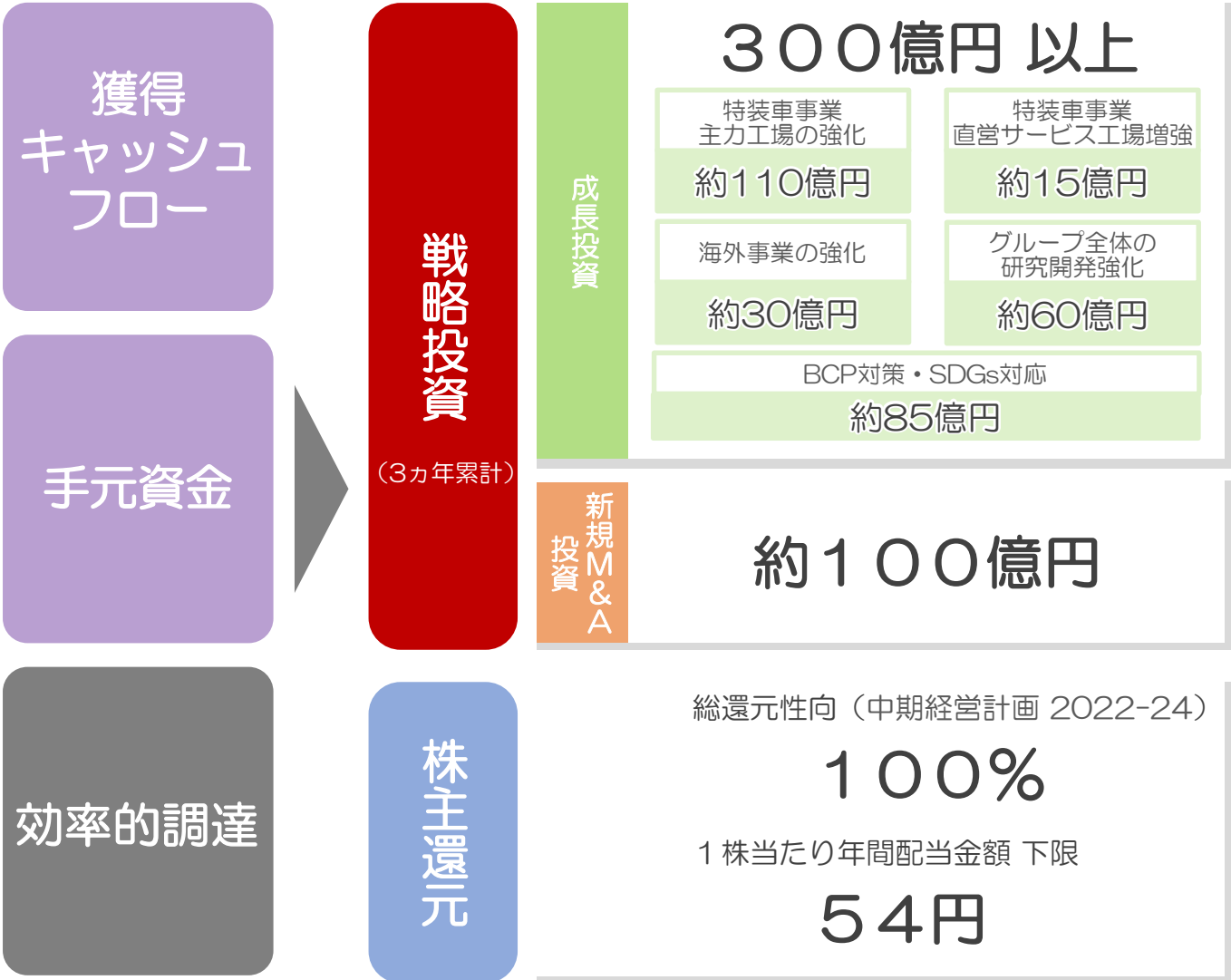
中期経営計画（キャッシュ・アロケーション）

KYOKUTO

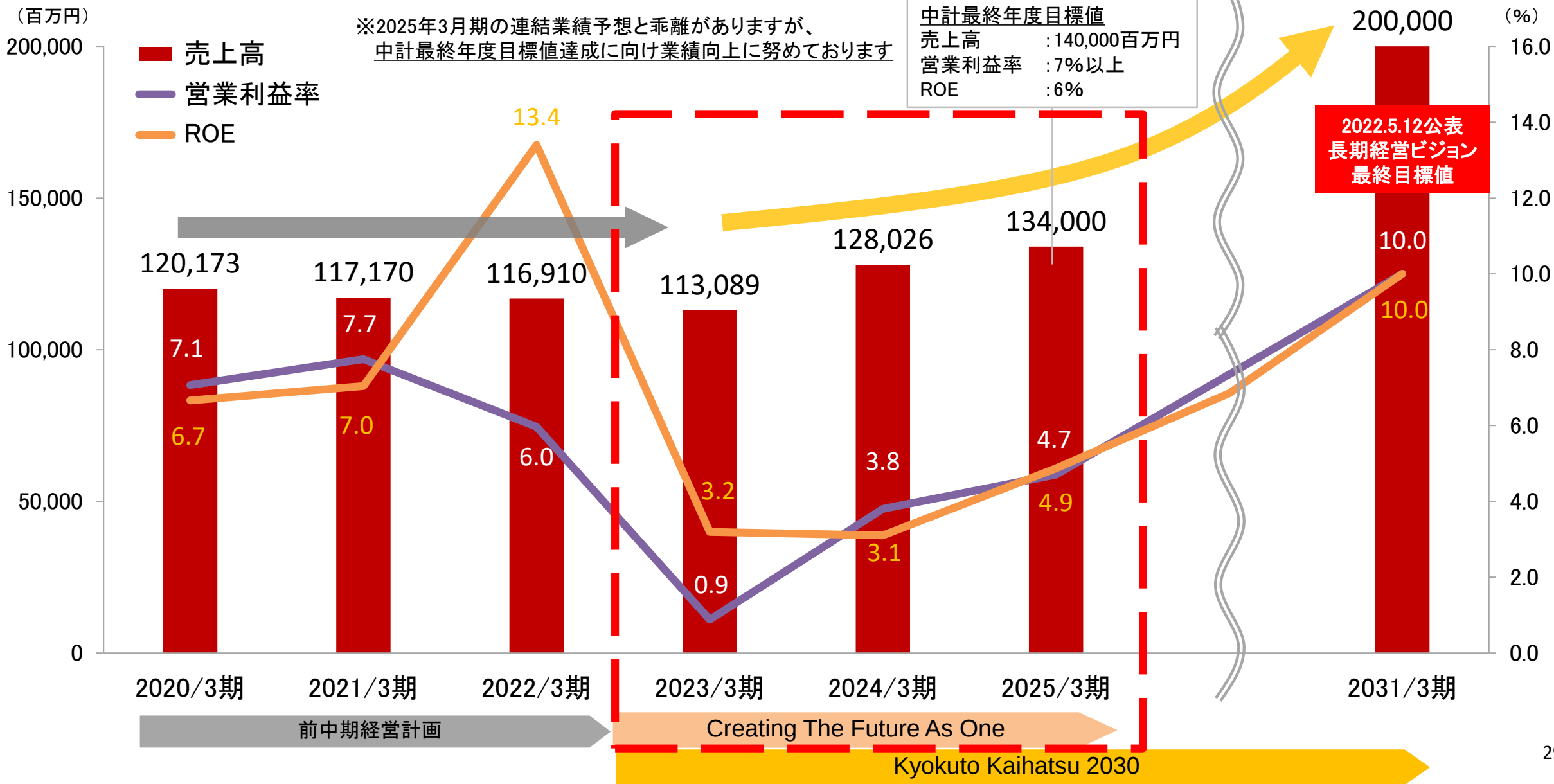
◆ 幅広いステークホルダーからの評価と企業価値向上を意識し、キャッシュ・アロケーションの適切な配分を推進

中期経営計画 2022-24 ～Creating The Future As One～

進捗状況



売上高・営業利益率・ROE目標



資本コスト等の算定とバランスシート改善

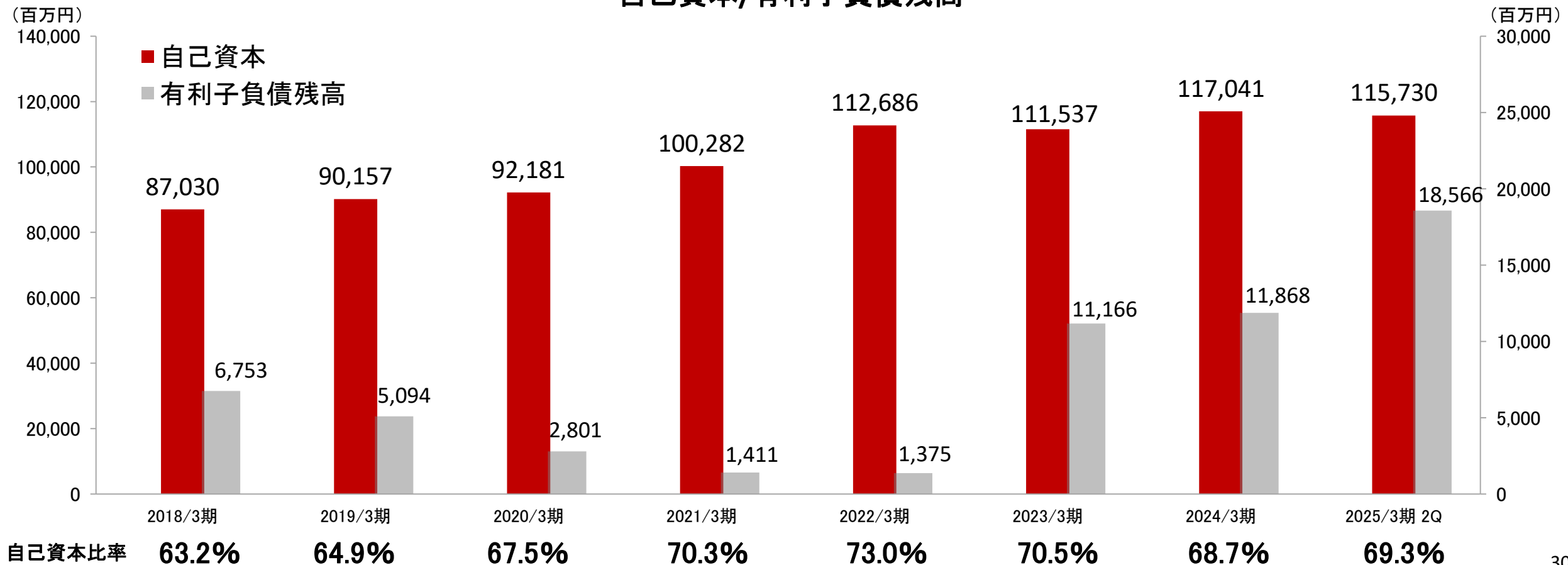
◆ 資本コスト 約7%、WACC 約 6% と認識

◆ 有利子負債の活用等により、資本効率を向上、資本コストとWACCの更なる低減を進める

➢ 2025/3月期2Q の自己資本比率は 69.3% (2024/3期末 68.7%)

➡ **株主還元・設備投資を強化し、自己資本の増加を抑制しつつ、資本効率の向上を図る**

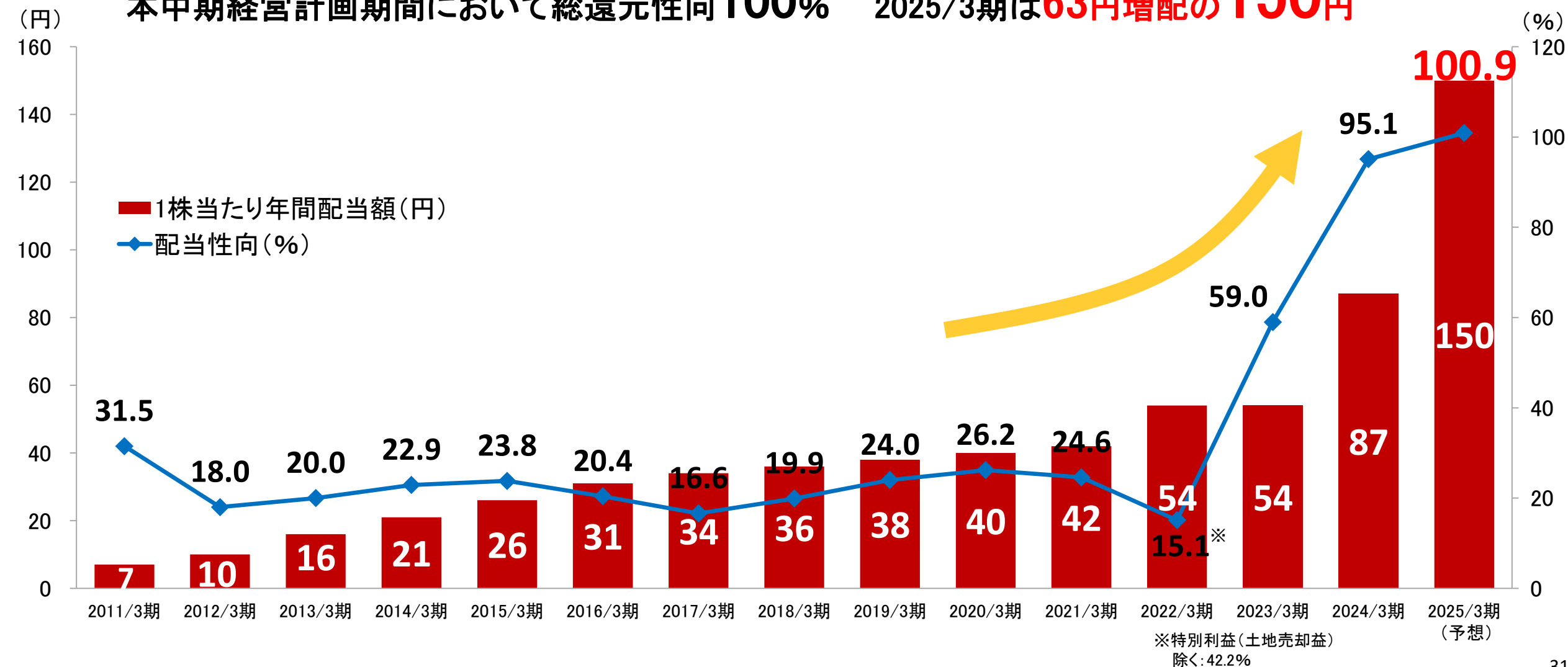
自己資本/有利子負債残高



株主還元の強化

株主還元の方針：年間配当額 1株当たり下限54円 +機動的な自己株式取得の実施

本中期経営計画期間において総還元性向100% 2025/3期は63円増配の150円



参考 補足資料

商 号 : 極東開発工業株式会社

本 社 : 大阪府大阪市中央区

設 立 : 1955年6月1日

資 本 金 : 11,899百万円

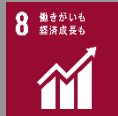
代 表 者 : 代表取締役社長 布原 達也

従 業 員 数 : 連結 3,237名 単独 1,133名 (2024年3月末現在)

連結子会社 : 11社

特装車事業

特殊自動車その他の輸送運搬機械の製造、架装及び販売、修理ならびに同部品の製造、販売 トレーラ・トラックボデー等の製造及び販売



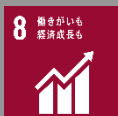
環境事業

自治体・広域組合、廃棄物処理関連企業から受注しプラント建設・設置取付
環境整備機器及び施設の運転受託、メンテナンス



パーキング等事業

立体駐車装置及び設備の製造、据付、販売及び修理
駐車場の経営（コインパーキング）



特装車事業の商流

※トラックへの架装の場合



トラックメーカー・ディーラー

商社・ユーザー様

①発注

②シャシ搬入
(預かり)

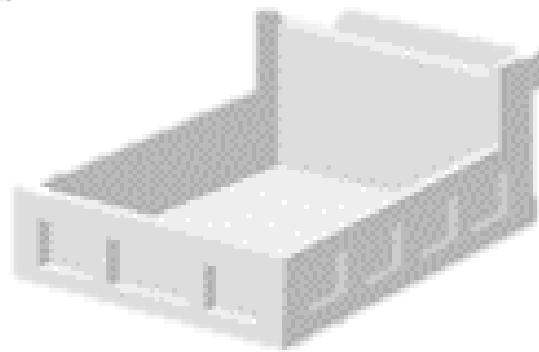
④納入
【売上】

①発注

④納入
【売上】



トラックの車台(シャシ)



ボデー

③架装



完 成

※コンクリートポンプ車等一部の製品についてはシャシは買取。

長期経営ビジョン

長期経営ビジョン

- Kyokuto Kaihatsu 2030 -

3つのステップでのステップアップ戦略

1st STEP

- グループ間シナジーの強化
- 成長への積極的投資
- 社会的課題に対応する研究開発体制の強化
- サステナブル社会の実現・発展への着実な進捗

TERM : FY2022-24

2nd STEP

- グループ総合力をフル活用する事業展開と拡大
- 高い生産性と高品質の両立による強い影響力の発揮
- 社会的課題への積極的対応

TERM : FY2025-27

3rd STEP

- 「卓越した技術力」と「確固たる品質」の両立
- 安定的・効率的な利益創出の実現
- 事業活動・社会貢献領域の更なる拡大

TERM : FY2028-30

最終目標値

サステナビリティ・ビジョン※1

- CO₂排出量削減 : $\Delta 38\%$ ※2
- リサイクル率 : 99.0%以上の維持
(埋立廃棄物ゼロ)

※1 : 詳細は後日公表予定の「環境ビジョン2030」に掲載
※2 : 極東開発工業、日本トレクス、極東開発パーキングにおける2013年度比の原単位

経・営・業・績・ビ・ジ・ョ・ン

- 連結売上高 : 2,000億円
- 連結営業利益率 : 10 %以上
- R O E : 10 %

連結業績・目標

<2025年3月期の目標>

- 連結売上高 : 1,400億円以上
(新規M&A成長含む)
- 連結営業利益率 : 7 %以上
- R O E : 6 %

株主還元

総還元性向 (中期経営計画 2022-24)

100%

1株当たり年間配当金額 下限

54円

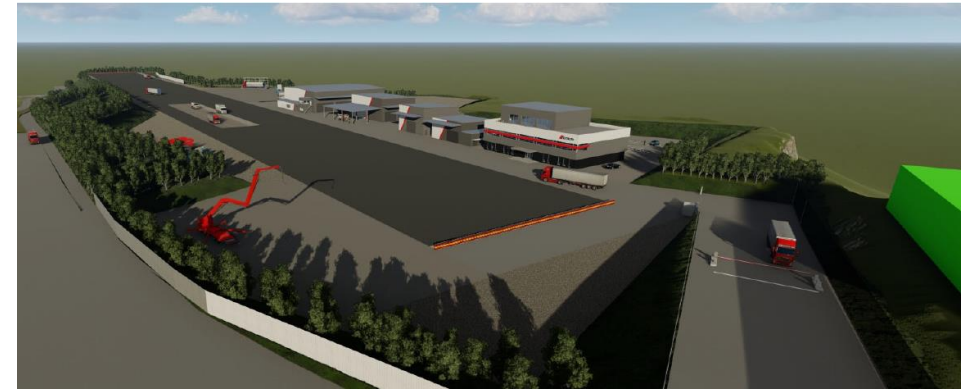
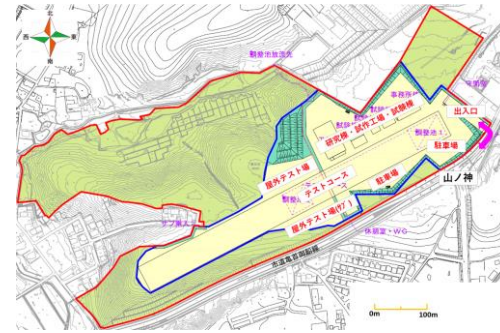
主な設備投資・M&A



分野	投資項目	投資内容	実施時期
特装	テクニカルセンターの建設	研究開発体制強化 新製品開発速度 約2倍に向上	2026年度 完成予定
特装	インドSATRAC（サトラック）社 チェーンナイ工場建設	生産能力強化 販路拡大によるシェアアップ	2025年度 完成予定
特装	日本トレクス 新工場建設	生産能力強化 約40%向上	2024年度 完成予定
特装	横浜工場 小型ダンプトラック自動化ライン	生産能力強化 約45%向上	2024年 7月竣工
特装	仙台サービスセンター リニューアルオープン	サービス体制強化	2024年 4月竣工
特装	姫路サービスセンター リニューアルオープン	サービス体制強化	2024年 1月竣工
特装	福岡工場 新工場棟・新事務所 竣工	生産能力強化 約30%向上	2023年 9月竣工
特装	オーストラリア販売代理店 グループ化	豪州及びオセアニア圏への 初拠点	2023年 7月実施
特装	九州特殊モータース グループ化	サービス体制強化	2023年 4月実施

テクニカルセンターの建設（2026年度完成予定）

- ◆ 新製品開発速度 約2倍に向上
- ◆ 社会的課題に対応する研究開発体制の強化/社会的課題への積極的対応
 - ・ 開発サイクルの短縮
 - ・ 軽量化・カーボンニュートラル
 - ・ 市場ニーズへの迅速な対応
 - ・ IoT・AI・EV化への対応力向上
- ◆ 確固たる品質向上への取り組み
 - ・ トレーラの認証試験を行うテストコースの設置
 - ・ 規制への迅速な対応
- ◆ グループ間シナジーの強化



全景鳥瞰イメージ

日本トレクス 新工場建設（2024年度完成予定）

- ◆ 重要工程の自動化により生産能力 約40%向上 ※本社敷地内に建設中
- ◆ 生産工程における高所作業を減らし、安全な作業環境を構築
- ◆ より環境に配慮した工場へ

※部品塗装で発生する揮発性有機化合物を年間 約 6.3 t 低減

※太陽光発電の設置によりCO₂排出量を年間 約 3.2 t 削減



新工場イメージ

インドSATRAC社 チェンナイ工場建設（2025年度完成予定）

インドにおける旺盛な特装車需要により、2024年3月期に過去最高の売上となったグループ会社のSATRAC社は、生産能力の強化による受注の取り込みと販路拡大によるシェアアップ及び将来的な製品の輸出展開を目指し、タミル・ナドゥ州チェンナイ市近郊に新工場を建設中



中期経営計画の進捗（サステナビリティ）

KYOKUTO

◆ CO2排出量削減率

三木工場ため池ソーラー

- 三木工場の電力コスト・CO2排出量の削減を目的とした通称「ため池ソーラー」が今年1月稼働開始
- ため池に浮かぶ太陽電池フロートで発電された電力は、約1kmの自営線で工場に送電され、全量、自家消費
- 三木工場の消費電力の約4割を再生可能エネルギーによりまかない、CO2排出削減効果は年間1,000トン

➤ 施設概要

太陽電池モジュール 約2,600kW
パワーコンディショナー 約2,000kW

◆ リサイクル率

リサイクル率進捗 97.8%（2023年度）

目標 99.0%以上（2024年度）

※2021年度における極東開発工業のリサイクル率（99.5%）と同等の水準を維持する

目標値と進捗

長期経営ビジョン 目標：△38%以上（2030年度）
※2013年度比の原単位

進捗：△22.3%（2023年度）

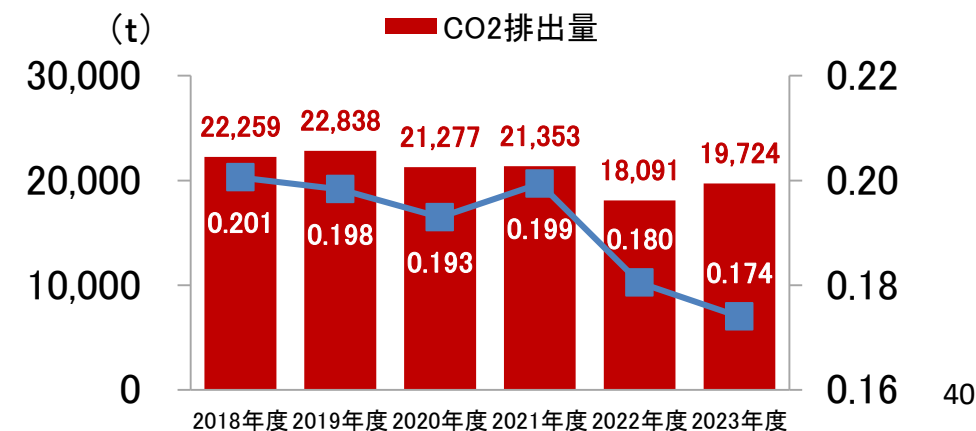
中期経営計画 目標：△10%以上（2024年度）
※2020年度比の原単位

進捗：△10.0%（2023年度）



ため池ソーラー（空撮）

太陽電池フロート



(株)タクマを代表企業とした企業グループに参画し、2024年6月28日付で尼崎市様より、第1工場跡地整備・運営事業（※一般廃棄物処理施設）を受注しました。

現在、尼崎市では2つの焼却施設（第1工場、第2工場）が稼働中ですが、施設の老朽化とごみ処理量の減少に伴い第1工場の既存施設を解体、跡地にごみ処理・リサイクル設備を集約した新施設建設を予定しています。

新施設建設工事は、当社を含む計5社からなる特定建設工事共同企業体が実施。完成後は、構成員により設立された特別目的会社で20年間の施設運営及び維持管理業務を実施します。

当社は、リサイクル施設（破碎設備・選別設備）のプラント建設工事及び同プラントの運営・維持管理を担当します。

（2024年8月19日ニュースリリース）



【施設概要】

受注金額	72,500百万円		
処理能力	焼却施設	:	447t/24h
	リサイクル施設	:	55t/ 5h
	し尿処理施設	:	19kL/日

施設完成イメージ図

2024年7月9日付で石川県輪島市と穴水町で構成される輪島市穴水町環境衛生施設組合様が発注する、輪島市・穴水町地域マテリアルリサイクル推進施設整備工事を受注しました。

本事業は、燃えるごみの処理方法をRDF化から焼却に変更することに伴い廃止された輪島・穴水地域RDFセンターの建屋を活用し、新たなマテリアルリサイクル推進施設を整備する工事となります。本工事において当社は、プラントの解体及び設計、施工を実施し、土木建築工事を(株)宮地組が実施します。

(2024年9月2日ニュースリリース)



【施設概要】

受注金額 2,355百万円

処理能力 18.7t/5h

施設完成イメージ図



変化に柔軟に対応できる、グローバルな企業へ

AIMING TO BECOME A GLOBAL COMPANY WITH FLEXIBILITY TO ADAPT TO CHANGES

本資料の予想は発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

本資料の著作権は極東開発工業株式会社に帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く本資料を複製・配布することを禁止します。



極東開発グループは持続可能な
開発目標（SDGs）を支援しています。